

「学校図書館を充実・活用するためのモデル校」

令和2年度

目標

○府内すべての小中学校の学力を向上させる

言語能力を育成するために取り組むこと

・学校図書館を効果的に活用した授業づくり

情報を多面的にとらえ、学習の理解を深める授業づくりを実践

・読書活動や読書指導の場づくり

創造力を養い、豊かな人間性等を育む場づくり

・情報の収集・選択・活用能力を育成する環境づくり

生徒や教職員の情報ニーズへの対応

取り組み内容

○言語能力の育成のため、学校全体で学校図書館の環境整備を行うとともに、本に親しむ活動や

学校図書館を活用した各教科等の授業づくりに取り組み、子どもたちの学力を向上させる。

○取り組みの成果を府域に発信する。

加配の配置について

計画に基づいて小学校・中学校に配置（府域で小学校・中学校計20校程度）

具体的な目標

○「本を読むことが楽しい」という生徒を育てる。

本校における昨年度までの取り組み

朝読書は全学年で継続的に取り組んでいる。教職員も朝読書を行っており、その姿勢を見せることによって生徒が積極的に本に親しむ時間となっている。学級に40冊学級文庫の貸し出しを行うことによって、普段図書の本に触れることがない生徒にも朝読書などで本に触れる機会を作ることができた。また、第一学年の国語の授業で学校図書館のオリエンテーションを行うことで、図書室の利用を促し、多くの生徒の利用につながっている。さらに、支援学級で調べ学習をする際、学校図書館を活用してもらい、サポートなどを行った。

生徒の実態

学校図書館には多くの生徒が来室し、静かに本を読む光景が見られる。その他にも放課後に勉強や調べものに図書室を利用する生徒は多い。しかし、図書の貸し出しは一部の生徒に偏っており、在学期間中、ほとんど学校図書館を利用しない、という生徒もいる。また、貸し出しもライトノベルなど借りるジャンルが決まっている生徒が多くなっている。

今年度の取り組み

各学期で学校図書館を利活用した授業を行う。また全学年で行ってきた朝読書を継続している。今年度はさらに、教職員が学校図書館の利活用した授業づくりを意識することによって、各教科において学校図書館を利活用する機会が増えている。また、学校図書館を利活用に関する研究授業を8月に行うことによって、教職員全体が実践例を知り、授業の改善を行う意識付けになった。この研究授業を通して、各教科で学校図書館を利活用することで、最終的には生徒の学力向上の一助とするのが目的であるという目的意識の確認につながった。

年間計画

令和2年度 4月…

5月…

6月…

7月・・・総合における学校図書館の活用 ※別紙にて後述

8月・・・学校図書館を利用した研究授業(理科) ※別紙にて後述

9月・・・保健体育における学校図書館の活用

10月・・・3年生ビブリオバトル

11月・・・学校図書館を利用した研究授業(社会科、国語科)

12月・・・1年生ビブリオバトル

1月・・・家庭科における学校図書館の活用(家庭科)

2月・・・大阪府読書フォーラム

3月・・・「学校図書館を充実・活用するためのモデル校」に関する総括

今後の課題

学校図書館を利活用しようという意識を全教職員で共有したことにより、授業での学校図書館の利活用は飛躍的に増えた。ただし、学校図書館を利活用した授業をすることによって、生徒の学力向上につなげるためには中長期的な取り組みが必要である。来年度以降も授業での学校図書館の利活用を継続できるようすすめていきたい。

学校図書館を利用した授業実践例

単
元
名

国際理解（総合的な学習の時間）

教科書出版社名（ ）

○ 小中学校（ 2 ）年 教科等（ 総合 ）

○ 「自ら学ぶ子どもの育成」に向けて、この単元で付けたい力

（教科等で付けたい力）

他国に対して関心を持ち、自国と比較したり他国の文化を積極的に学ぶ姿勢。

（学校図書館等の活用で付けたい力）

本や ICT を活用した調べ学習の方法

○ 学校図書館等活用のポイント

市内の図書館などの蔵書と学校図書館の蔵書を利用し、一人一冊本を使って調べ学習が行えるようにした。

学習の展開（全7時間）

第1時	・調べ学習の流れについて確認。 ・調べ学習の方法について説明。 ・グループで本を使って、担当する国のなにについて調べるかを決める。 ・本を使って調べ学習を行う。
第2時	・授業の流れの確認。 ・グループで本やタブレットを使用して担当する国の決めたテーマに従って調べる。 ・調べたことをプリントにまとめる。
第3時	・本などを使って決めたテーマについて調べる。 ・調べたことを班で交流し、誰がどこに書くのか役割分担を決める。 ・プリントにまとめたものを推敲する。
第4時	・班で交流し、壁新聞に下書きを書く。 ・文章の構成などを推敲する。
第5時	・壁新聞の下書きを清書する。
第6時	・壁新聞の下書きの清書を完成させる。
第7時	・完成した壁新聞をクラスで交流する。 ・相互に評価をし、良い班を表彰する。

☆学校図書館等活用 (本時) の学習

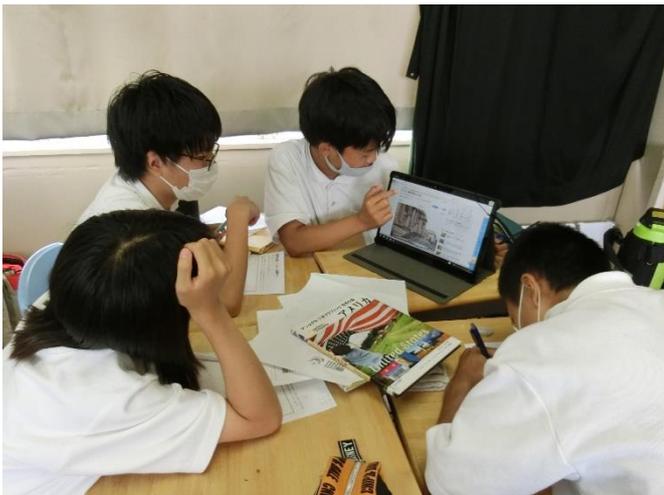
本時のねらい
国についてテーマに沿って調べ、プリントにまとめよう。

学習展開

時間 (分)	主な学習活動	指導上の留意点
5分	1. 前時のふりかえり グループで決めたテーマの確認。 自分がどこまで調べていたのか交流。	・別のテーマで調べる生徒が出てこないよう、確認を促す。
	めあて 国についてテーマに沿って調べ、プリントにまとめよう。	
25分	2. 本やタブレットを使用して国について調べる。 本を使用し、自分が決めた国のテーマに沿って調べ、メモをする。 本だけではわからないことをタブレットを使用して調べる。 (例: 五中からその国までの移動手段など)	使用する図書はグループで被ることがないように配慮した。そのため同じ国についてでも違った内容が調べられた。
15分	3. 調べたことをプリントなどにまとめる。 自分が調べた内容をプリントにまとめる。	・
5分	4. ふりかえり 自分が調べてまとめたものをグループで交流する。	



国際理解（総合的な学習の時間）



ダニエル電池の仕組み（理科）

教科書出版社名（ 啓林館 ）

○ 中学校（ 3 ）年 教科等（ 理科 ）

○ 「自ら学ぶ子どもの育成」に向けて、この単元で付けたい力

（教科等で付けたい力）

- ・水溶液には電流を通すものと通さないものがあることを見出させる。
- ・電気分解の実験より、イオンの存在を見出させ、原子のナチたちとイオンの生成について理解させる。
- ・電池を作る実験により、電池の構造を知り、電池は化学エネルギーを電池エネルギーに変換していることに気づかせる。
- ・電池の電極でどのような変化が起こっているか考えさせ、電池の原理をイオンのモデルを使って説明できるようにする。
- ・いろいろな電池があることを説明し、燃料電池の特徴について気付かせる。

（学校図書館等の活用で付けたい力）

- ・本で調べることによって自分の考えの正当性を図る。

○ 学校図書館等活用のポイント

- ・電気に関する本を複数用意することによって、生徒が本を選ぶことができるようにした。
- ・科学者が単体で載っているものではなく、図鑑を用いることによって生徒が他の分野にも興味を持てるようにした。

学習の展開（全 16 時間）

第 1 時	<ul style="list-style-type: none"> ・導入 燃料電池車や家庭用燃料電池が実用化されていることを知る。 ・どのような物質でも、水溶液にすると電流を通すようになるか考えさせる。
第 2 時	<ul style="list-style-type: none"> ・電流を通す水溶液と電流を通さない水溶液を調べる。
第 3 時	<ul style="list-style-type: none"> ・実験 1 の結果と考察から質は水に溶けて電流を通すものと、水に溶けても電流を通さないものがあることに気づく。
第 4 時	<ul style="list-style-type: none"> ・電解質の水溶液に電流を通したとき、電極付近でどのような変化が起こるか考える。
第 5 時	<ul style="list-style-type: none"> ・うすい塩酸の電気分解を行う。

第6時	・実験2の結果と考察から、塩酸中では、塩素原子は-の電気を帯びた粒子になっていることに気づく。
第7時	・原子が電気を帯びた粒子になっていること、原子が電気を帯びるしきみを理解する。
第8時	・原子がどのようにして陽イオンや陰イオンになるかそのしきみを理解する。 ・イオン式の書き方がわかる。
第9時	・電離について理解し、電離の様子を化学式とイオン式を使って表す。 ・電池の導入
第10時	・身近なもので電池をつくる。 ・図書室の本で、電池の歴史を調べ、ガルバーニやボルタについて調べてまとめる。
第11時	・電池のモデルを電極での化学変化を理解する。 ・モーターを早く回すには、どのような工夫をすればよいか考える。
第12時	・調べてきた電池の歴史を発表し、共有する。 ・人類初の電池であるボルタ電池を調べる。
第13時	・人類初の電池であるボルタ電池を調べる。
第14時	・ボルタ電池を改良するためにはどうしたらよいか、図書室の本を使って調べる。
第15時	・ダニエル電池を調べる。 ・実験結果と図書室の本から、ボルタ電池と違う点、改良された仕組みを見いだす。
第16時	・ダニエル電池のしきみを電極での変化を中心に、イオンのモデルを使って説明する。 ・いろいろな電池が日常生活で利用されていること、またそれぞれの電池の特徴を理解する。

(本時 15/16 時)

☆学校図書館等活用(本時)の学習

本時のねらい

ダニエル電池の実験を行い、ボルタ電池を改良したことによる違いを考察する。

学習展開

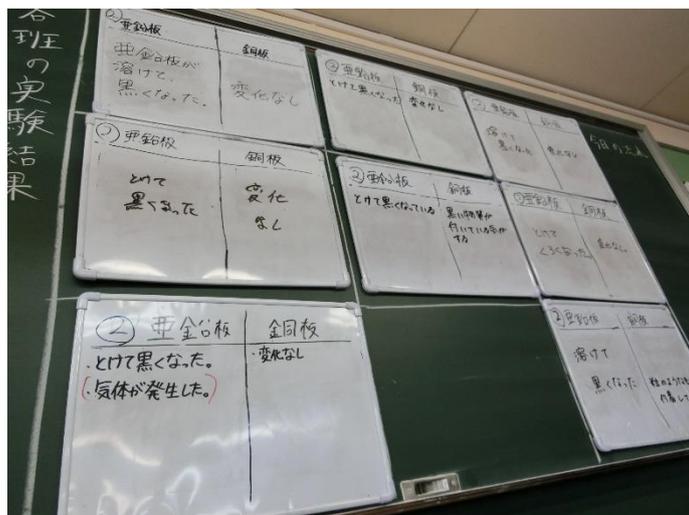
時間(分)	主な学習活動	指導上の留意点
5分	1.前時のふりかえり ○ボルタ電池は垂鉛版から水素の泡が発生したことによって分極したことを思い出す。 2. めあての確認 ○人類が発明したダニエル電池を紹介し、「めあて」の内容を理解させる。	
25	めあて ダニエル電池の実験を行い、ボルタ電池を改良したことによる違いを考察する。	

分	<p>3. 実験を行う。 ○実験の説明。 ○ダニエル電池を組み立て、電気エネルギーが取り出せるか調べる実験を行う。 ・実験中、ワークシートに書くとともに、結果をホワイトボードに書く。</p> <p>4. 結果を確認し、考察する。 ○結果を確認し、ダニエル電池がボルタ電池を改良したことによる違いをイオンと関連付けて考察する。 ・結果からワークシートに考えを書き、図書室の本で調べ確認する。 ・班で考察を共有し、タブレットに記入する。</p>	<p>◎電極を中心にボルタ電池と比べてどのような変化をしているか注目させる。</p> <p>◎電気に関する本を複数用意することによって、生徒が本での確認をする際、本を選ぶようにした。</p>
15分 5分	<p>5. ふりかえり ○ダニエル電池の仕組みをイオンのモデルをもとに説明する。 ○単元を通して、図書室を利用したことによる感想を書く。 ・ワークシートに考えを書く。</p>	<p>◎考察で書いたイオンのモデルに注目させる。</p>

【学校図書館の利用についての研究協議】

目的:今後の授業研究に役立てる。

研究発表会などがより充実するために役立てる。



研究授業において見られた工夫

・タブレットやホワイトボードも効果的に活用していて、

さらに図書利用により学びが深まっていたと思う。

・ホワイトボード、図書資料、タブレットの活用と盛りだくさんだった。



・図書利用の一提案となるような授業だった。

活用の仕方を考えていくきっかけになった。

・ICT、本など効果的に活用できていた。

研究協議や講評について

・図書利用の意義・目的が理解できた。

・図書のほんの活用、自分の教科ではどのようにつかうことができるかもっと考え、生徒の「力」にな



る授業づくりに取り組まなければと思った。

・図書資料をどのようにかつようされているか知れてよかった。振り返りの書かせ方が参考になった。

その他

・タブレット、カメラ、プロジェクター、図書を駆使して、生徒は理解を深めていたと思う。教師の話し方はそれらに頼っていると向上しないので、それらに頼らず、話し方を磨いていかなければならないと痛感した。

・本を利用したからこの授業が成立したのか、本がなくてもある程度の成果を上げることができたの

か。ほんの実用性・必要性について協議できたらと思う。

○保健体育による学校図書館の活用
(第3学年)

【めあて:スポーツの歴史と文化的背景
について調べよう】



自分で本を選ぶ



興味のある分野について調べる



レポートにまとめる



発表する



生徒の読む力、書く力の育成!





○国語科における図書館の活用（第2学年）

【めあて：日本の魅力について説明するための、情報を収集しよう。】

教科書の本文と関連のある

本を調べる



自分でレポートにまとめる



発表



生徒が主体的に学ぶ姿勢

の養成



参考

学習指導要領(総則)

(7) 学校図書館、地域の公共施設の利活用

学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。また、地域の図書館や、博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること。

学校図書館については、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であり、①生徒の想像力を培い、学習に対する興味・関心等と呼び起こし、豊かな心や人間性、教養、想像力等を育む自由な読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能、②生徒の自主的・自発的かつ協働的な学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能、③生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有している。

また、これからの学校図書館には、読書活動の推進のために利活用されることにより、学校における言語活動や探究活動の場となり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する役割が一層期待されている。

学校においては、このような学校図書館に期待されている役割が最大限に発揮できるようにすることが重要であり、学校図書館に期待されている役割が最大限に発揮できるようにすることが重要であり、学校図書館が生徒が落ち着いて読書を行うことができる、安らぎのある環境や知的好奇心を醸成する開かれた学びの場としての環境が整えられるようつと得ることが大切である。また、書く教科等において、学校図書館の機能を計画的に利活用し、生徒の自主的・自発的な学習活動や読書活動を充実するよう努めることが大切であ

る。その際、各教科等を横断的に捉え、学校図書館の利活用を基にした情報活用能力を学校全体として計画的かつ体系的に指導するよう努めることが望まれる。さらに、教育課程との関連を踏まえた学校図書館の利用指導・読書指導・情報活用に関する各種指導計画にもとづき、計画的・継続的に学校図書館の利活用が図られるよう努めることが大切である。

こういった学校図書館の利活用を進めるにあたって、学校図書館における図書館資料の充実と、学校図書館の運営等に当たる司書教諭及び学校司書の配置の充実やその資質・能力の向上の双方を図ることが大切である。図書館資料については、図書資料のほか、雑誌、新聞、視聴覚資料、電子資料（各種記録媒体に記録、保存された資料、ネットワーク情報資源（ネットワークを介して得られる情報コンテンツ）等）等の図書以外の資料が含まれており、これらの資料について、生徒の発達の段階などを踏まえ、教育課程の展開に寄与するとともに、生徒の健全な教養の育成に資する資料構成と十分な資料規模を備えるよう努めることが大切である。また、司書教諭及び学校司書については、学校図書館がその機能を十分に発揮できるよう、学校図書館の館長としての役割も担う校長のリーダーシップの下、各者がそれぞれの立場で求められている役割を果たしたうえで、互いに連携・協力し、組織的に取り組むよう努めることが大切である。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるにあたっては、学校図書館の活用に加えて、資料調査や本物の芸術に触れる鑑賞の活動等を充実させるため、地域の図書館、博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設を積極的に活用することも重要である。なお、本項においては「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ「劇場、音楽堂」としているが、こうした公共の施設の名称や施設が有する機能は地域によって多様であるため、ここに規定する施設に限らず生徒の学習の充実に資する観点から幅広く活用を図ることが期待される。